

## キジョランとアサギマダラ

三木 順一

アサギマダラの食草がキジョランである事は蝶をやる人は皆知っている。所がこの植物は播州には意外に少ない。大きな光沢のある葉、長いつる、一度みたら忘れられない植物だが、知らない方も多し。播州では雪彦山、船越山、上月町の楠田の滝などにみられるが、山径の縁にはない。探すのに困る位である。他の山では殆んどみかけない。最も多いのが加美町の金蔵山(カナクラサン)で、この寺の奥の院に行く途中の水源地付近の杉の植林の下には100米四方位に一面ある。4月3日の総会のあとで、尾崎、石井、森下氏を案内した時はもう日没も近くうす暗かったが、あの特長のある幼虫を3頭得た。

笠形山にはキジョランはみかけなくて、ツルザシワがある。これも食草か、成虫を見る事が出来る。所がこの二種の植物、葉に大きな食痕をみる事が少ない。もう一つこの蝶の食草であるオオカモメズル、どこの低山にもあるが、小さなつる草で葉も小さく、まばらであるが、なかなか幼虫をみない。1本のつる位で、あの大きな幼虫が育つのかしらと不思議である。草に比べて見て成虫が多いように思う。もう一つの食草の「ガガイモ」か、これなら里に近い所にもある。

私はオオムラサキよりも、このアサギマダラの方が好きである。あの幼虫も面白い。キジョランは挿木でもよく育つし、丈夫で日蔭が好きらしい。つるがよく伸びるので、先の芽をつめば低く育つ。試みられることを。

(S. 06: 神崎郡福崎町 )

## 昆虫館だより ④

内海 功一

2月の平均気温は0.05°C、最低は-10.5°Cという気温が2回でした。近年にない冷え込みだが、雪は8cmが最高だった。

館内も3°Cという時もあり心配したが、いま、例年のようにオオナナフシが終 幼虫も含め数百匹出ている。キベリハムシはさきの寒さで、とうとう死んだ。他にコバネイナゴが3 のものを混え、オンブバッタと共に相等でてきた。温室ではヒメギスがでており、キチョウは、もうコーカンボクに産卵している。

2月末オオカマキリがふ化したが、ショウジョウバエもいて、当分やっつけていける。キリギリスも一週間程暖めればふ化するものだが何分、その前に餌の準備がいるなど、自然のサイクルをくるわせることは大変なことがよく分かる。3月に入れば、もう陽気も高まり、館内ではキリギリスも出るし、野外でも虫が多く見られるようになる。虫の次々生まれるこのころは、実に、楽しいときでもある。

(S. 08: 佐用郡南光町船越)

## 編集後記

会報No.5をお手許におおくりいたします。私事情で休会並みとなり会報の発行が大変遅れ、運営委員長として申訳なく思います。

とくに高橋寿郎氏には原稿をいただきながら迷惑をかけたことをお詫びいたします。

これからも会報をどしどし発行していく予定です。兵庫県産の報文等御協力の程お願いいたします。

(運営委員)